

の句内容である「范蠡」の故事と見事に呼応している句作りになっていることも見逃してはならないと思う。

- 51 同病求朋友 病を同じくして朋友を求め  
52 助憂問古先 憂を助けて古先を問ふ  
53 才能終蹇剥 才能終に蹇剥  
54 富貴本迍 富貴 本迍  
55 傅築巖邊耦 傅が築は巖邊に耦し  
56 范舟湖上扁 范が舟は湖上に扁なり  
57 長沙沙卑濕 長沙の沙卑湿  
58 湘水水澗溱 湘水の水澗溱  
59 爵我空崇品 我を爵して空しく品を崇くす  
60 官誰只備員 誰をか官としてか只 員に備ふ

【七段】

この十句では、春から初夏への季節の移行を基軸に、太宰府謫居の生活における精神状況を描写する。ここでは、気持ちの転換をはかるべく、太宰の風土に自分自身を順応させようと努めたことを強調する。それが「八段」以降で全て裏切られる状況であったことの伏線として機能している句作りである。六十一句、六十二句の「故人」「親族」はいずれも実在の人物を想起した詩語ではなく比喩表現として使用されているものと理解した。